

くまもと・わくわく基金（市民公益活動支援基金）  
令和2年度（2020年度）助成事業公開プレゼンテーション議事録（要旨）

- 1 開催日時：令和2年（2020年）2月10日（月） 13時30分から
- 2 開催場所：熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと1階大会議室
- 3 市民公益活動支援基金運営委員
  - ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（放送大学 熊本学習センター 客員教授）  
越地 真一郎 副委員長（地域づくりアドバイザー）  
水野 直樹 委員（一般社団法人 スタディライフ熊本 理事）  
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会 理事長）  
吉永 京子 委員（公募市民）  
白石 義晴 委員（市民局市民生活部長）  
藤川 潤子 委員（東区役所区民部東部まちづくりセンター所長）
- 4 プレゼンテーション（団体発表6分、質疑応答3分）及び委員長講評

（UP-1）NPO法人 しらさぎ

【事業名】熊本城石垣・清掃ボランティア活動

<質疑応答>

（藤川委員）

まず、清掃活動に関して、募集をされるということだが、何回、何名のボランティアを募集される予定か。

（団体）

作業場所に限りがあったので、自分たちで集めた以外の方だと、昨年度は10名程度お願いした。今年度は、また場所等も確認して、20名ほどお願いしようと思っている。

（藤川委員）

ボランティアの方が20名ということか。市民の方などの募集はされないのか。

（団体）

市民の方をボランティアとして、20名ほど。他にも一般参加等で参加されるので、そのなかにも市民の方がたくさんいらっしゃる。それと別途あいぽーとにお願いして、20名ほどのボランティアをお願いしようと思っている。

(藤川委員)

そうなる、トータル的にはどれぐらいの方が作業をされるのか。

(団体)

一般市民の方ですか？

(藤川委員)

はい。トータルで。

(団体)

トータルでいけば、昨年の実績が210名ほどだったので、多分変わらないか、若干増えるぐらいの人数かと思う。

(藤川委員)

年に何回か。1回か。

(団体)

熊本城は1回。

(藤川委員)

ここに、1,500円の鎌を30本購入すると書いてある。参加される方には、おうちにも多分鎌を持っていらっしゃるという方もいらっしゃると思うのだが、なぜ募集をかけるときなどに「自宅から鎌を持ってきてくださいね」という呼び掛けはされないのか。

(団体)

どうしても公共機関だとか、いろんな方が集まってくるので、鎌等を管理するというのが大変難しいため、うちの方でちゃんと鎌をお渡しして、引き取って、ということでやっている。

(水野委員)

いまの話に少し関係するかもしれないが、専門的な知識を使われているところと技術を使われているところが、白鷺電気工業さんの技を使っているということだったが、会社のCSRとしてされている部分と、NPO法人でされている部分の、その違いや狙いがあるのかというところ。加えて、石垣を清掃されている部分に関しては、いわゆる白鷺電気工業さんたちのCSRとして考え、一般の方々と清掃する部分については、そちらの一般的なNPO法人としての活動にしてもいいのかな？という気がしたため、いままで白鷺電気工業さんと一緒にされてきた部分、やっているところまで含めて、全部貴法人の活動としたいというのは、どうしてそうなったのかなあというところをお伺いしたい。

(団体)

以前は会社内で、社員とその家族と行っていたが、熊本城とか、あるいは八代城とかでの清掃に、周りの方から「参加させてください」というような要望があり、またほかの企業の方や市民の皆さんなどからそういう話があったので、その付近からNPO法人として立ち上げた。

(UP-2) NPO法人 ガット

【事業名】熊本市立小・中学校の学校図書館リニューアル事業

<質疑応答>

(中島委員)

今年度の事業では7校予定されているということだが、毎年募集されたときに、その募集予定数を超えるということがあるのだろうか。それともうひとつ、いままで事業されている学校について質問です。熊本のなかで137校区あるということだが、実際にどの程度の学校が事業に参加されているのかということまでお聞きしたい。

(団体)

今年度7校ということだが、だんだん増えてきている。まだ始めて間もない2、3年ぐらいの活動だが、少しずつ増えていっているところ。来年度の事業も、「今年は無理です」と断ったところ、「それでは、来年度お願いします」というふうに言ってきてくださっているところもある。それで137校区全部に呼び掛けると、とても無理だというふうに思ったので、例えば今年は東区と西区とか、重点的に、そこ以外は絶対にしないという意味ではないのだが、中央区と北区というふうなかたちで重点的なところを決めて、ちからに余裕がありませんので、大体7校ぐらいが、ひとつの年度では精一杯かなあというかたちで、いまから実施していこうと考えている。また増えるかもしれないが。

(吉永委員)

本当に大変だと思う。活字離れが言われているなか、私の孫や子どもたちもそうで、学校の図書館で本に親しませていただいた。子どもたちにとって魅力がある場所として、ぜひ頑張ってください。応援しています。

(団体)

ありがとうございます。

(UP-3) エコ村伝承館

【事業名】体験型環境学習活動の熊本市内への更なる展開

<質疑応答>

(白石委員)

説明のなかで最初にお話されていたが、最初は買い物ゲームなどを行われていて、それから伝承遊びに移っていったという、その辺について、何か理由があれば。

(団体)

15年前は、3Rや分別など、そういったものが全然一般的ではなく、非常に多くの注文があって、毎年50件、60件とやっていた。その影響かもしれないが、皆様にそういった認識が非常に移され

ていき、だんだんとそういったニーズが少なくなってきた。それに引き換えて、学童保育とかそういうもので、学校での需要が多くなり、子供遊びとか伝承遊びに変えていったという経緯がある。

(古賀委員長)

ひとつ、私の方から事業2の確認をさせて欲しい。エコ村伝承館会員への指導者教育。この対象は会の内部か。

(団体)

先程言ったように、若い人たちを集めるが、そういった人たちにはまだ年寄りのノウハウが伝わってない部分があるので、研修会とかそういったものを内部で開きたいと思っている。

(古賀委員長)

そのときに、内部研修にこういった市民公益活動支援基金を使うことの根拠は、どこにあると考えるか。つまり、事業1はいいのだが、事業2は内部向けの話になる。その辺り、もし整理できたら。

(団体)

環境教育者を育てるための研修と位置づけているので、若い人を含めて、新たに入ってきた全員が、啓発教育ができるということを主な目的としてやっている。

(越地副委員長)

熊本市ということで絞って、2点聞きたい。ひとつは、熊本市環境総合センターがあるが、そことの連携。県の環境センターではなくて、市のセンター。それから会員を県北などから熊本市に動員するとあったが、熊本市そのもので会員をどう増やしていくのか。

(団体)

熊本市と関わりがあったものとしては、COOL CHOICEの事業がある。今年度は雨で中止されたが、あれに毎年参加しているというのがひとつ。それとニーズによっては、熊本市からの依頼でいろんなところに出向くことがある。また、地方にいる会員が多いのだが、やっぱり熊本市に人数を増やして、熊本市で活動する人員を増やす必要があるかと思っている。

(UP-4) 特定非営利活動法人 こども美術文化研究会

【事業名】いのちかがやく 子ども美術展 in KUMAMOTO

<質疑応答>

(藤川委員)

子どもの絵を知っていただくことは、重要なことなのかなあというように思うのだが、その知っていただくなかで、今後どのように地域貢献や役割を果たそうと考えていらっしゃるのか、その辺りを教えて欲しい。

(団体)

まず、長谷光城という現代美術家の作家さんがいらっしゃるのだが、今回の展覧会ではギャラリートークを行って、子どもには「こういうことだよ」と、そういう時間を設けたいと思う。そこで、子どもの絵の見方を、どういうふうに見ていいのかわからないので、そういうことに触れていきたいというところがひとつ。それから、まちづくりのビジョンとしては、子育てに悩む子育て世代であったり、美術に関心がある世代。いまから保育士になろうとする学生さんだったりとか、同じ世代の子どもさんを見て、どういうふうを感じるのかってことで、子どもから大人まで幅広い方に見ていただく、感じていただくというところが一番大きいと思う。その感じるというところが、触れる機会がないと感じることもできないので、そういう機会を私たちは作っていきたいと考えているので、そういうところを美術館で開催し、その絵についてギャラリートークというかたちで語っていただく、保育士同士、大人同士で語るという場を提供したいと思っている。

(古賀委員長)

これもちょっと私から確認させて欲しい。去年は熊本県内の7園で開かれたということだが、熊本市内の園はひとつだけだった。そういった意味では、これから熊本市の幼稚園、保育園に広げていくような考え方と、その方法。これについてお聞かせいただきたい。

(団体)

言われたとおり、熊本市内は1園だけではあるのだが、熊本県のなかで一番の中心部は、やっぱり熊本市になる。熊本市からこういう保育、子どもに関する考え方というものを発信することで、地方に降りていくことも考えているし、熊本県内のあちこちに、南は天草の方から、北は山鹿の方まで保育園があるので、そちらの保育園が中心となって、地域に発信していく。その集大成として県内8園が中心となって、全国の絵を集めて、熊本市で発信するということで、熊本市1園だけではあるのだが、熊本市からの発信で、行く末は熊本県全体までと考えている。

(UP-5) あそび寺子屋

【事業名】ラクに両立！働くママの育児と育自

<質疑応答>

(白石委員)

事業の1と2を聞かせていただいて、1のティーパーティーというものがあったが、それはいわゆるコーディネーターの方がいらっしゃるのだろうか。もしくは、自分の考えなど、そういうものを話して発散させるパーティーなのか。また、1と2の事業の関連性みたいなものは何かあるのだろうか。

(団体)

事業1は、前半と後半に分かれていて、前半が講師を招いての講演会、そして後半が交流会ということで、ママ同士の交流ができる場にしていきたいと思っている。事業1と事業2の関わり合いについては、どれもママのための特別な時間ということをテーマに展開していきたいと思っている。

(水野委員)

お母さんが笑顔っていいですね。それが家庭の平和ですね。結構こういったものは、熊本市でも男女共同参画センターはあもにいで2月に実施するなど、似たようなかたちのものがあったりしているのだが、その熊本市の機関との連携だったり、まずはお母さんたちに知ってもらわなければいけないので、チラシを送るだけでなく、そういうところでの皆さんに知ってもらう機会はどう考えているのか。

(団体)

私個人の話になるが、男女共同参画の熊本県推進員として活動している。また、熊本市では、ウィメンズカレッジという講座をしており、そちらの法人会執行部役員を行っているので、はあもにいさんとの連携はお任せくださいと言ってしまっているものかと思いつつも、綿密に進めていきたいとは思っている。ただ、今回広報の部分に関しては、わたくしどもの活躍の場が、これまで県北地域が主だったので、そういった面では、ちょっと苦労をするのかなとは思っているのだが、わたくしたちはwebクリエイターなどもしているんで、そういった場の発信であったりとか、あとは広報関係のつながりをフルに活用させていただいて、進めて、展開していけたらなとは思っている。

(古賀委員長)

私の方から確認したい。いまのお二人の委員からの質問は、この事業が本当にできるかどうか。ちゃんと担保してくださいよ、というご質問である。特に具体的に申し上げますと、事業1。50人を3回集める。これは大変なことだ。その具体的な方法を教えていただくのと、もうひとつ。先程質問があった内容で、関連はママではあるのだろうけど、キャリアアップに関するものとか、事業1と事業2ではレベルが違う。客層が違う。そういった意味では、事業1から事業2への発展性、そのときのアプローチの仕方、2点。改めてちょっと説明をお願いしたい。

(団体)

50人を3回集めるということは、本当にそのとおりで、広報のちからが要る。ちからが必要なのもそうだが、もちろん同じ方が3回来るとも限らないし、勉強会についても同じ方が来るとは限らないというのも、もちろん、考えたうえでの計画なのだが、どれも先程のアンケート調査にもあったように、ママが課題としているということは、揺るぎない事実であることが言える。また、知ってもらうための広報活動については、先程の男女共同参画もひとつでもあり、私の個人事業としては、ママ向けのフリーペーパーの連載をしていたりというのもあって、その広報誌でも広報していただけるようなつながりをフル活用していきたいと思っている。

(古賀委員長)

50人を3回集めることの説明が一番だったので、いま説明いただいたので、これで結構です。ちょっと失礼なこと申し上げたが、お許してください。

(UP-6) NPO法人 ブライトパル熊本・・・規定時間までに受付がなかったため失格

【事業名】“行事を楽しむ”親子いけ花

(UP-7) 熊本転入ママの会 くまてん

【事業名】転入ママウェルカム会

<質疑応答>

(中島委員)

校区ごとに地域に密着したおしゃべり会をされているが、この会は、運営の方たちがコーディネートされるのだろうか。その役割などを教えていただきたい。

(団体)

先程ご紹介したキャストと呼ばれる運営メンバーが、その時々によって違って10名か20名ぐらいで運営だけをしており、参加される方を一般の方としている。告知をして、申込みをしていただいて、来ていただくというかたちになっている。

(吉永委員)

本当に素敵なことと思う。転入してきてから、本当に私もそうだったが、理想になってしまわないようにしてほしい。いま地域の孫の家庭を見ている、お隣のお母さんとかと、子どもたち、娘たちは、話がなかなかできない。だから、転入のママだけじゃなくて、ご近所とも仲良くしていただいて、一緒に成長してもらって、子どもの教育について話し合ってもらえるように、仲良しになっていただけないかなあというふうにお願いします。本当に大変でしょうけど頑張ってください。

(古賀委員長)

何か、いまのお願いに答えることがありましたら。

(団体)

ありがとうございます。本当に一日誰とも喋らない日があったりだとか、そういう状況がワンオペ育児の最たるところというかたちなので、おじいちゃんおばあちゃんにもなかなか会えない状況があるので、地域の方とは、ぜひ、つながりを持っていきたいなと考えている。ありがとうございます。

(越地副委員長)

「くまてんパパの会」的な広がりはあるのか。

(団体)

ご指摘ありがとうございます。一度、パパたちを集めてさせていただいたこともある。パパたちが仲良くなってもらえることで、パパたちの会社の人たちのつながりができたりなどして、そういった活動も今後取り入れていきたいなどは思っているのだが、いまのところまだ1回だけ開催しただけだ。ありがとうございました。

(UP-8) NPO法人 くまもと新創生プロジェクト

【事業名】世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業

<質疑応答>

(白石委員)

ひとつお聞きしたいのが、最初の説明にもあったが、設立の目的が、当初は熊本地震からの復旧復興といったようなところを契機として、ということなのだが、そのなかで活動の分野としては、文化、芸術、スポーツ、国際協力の振興とか、まちづくりや地域安全とあるが、今回「水」というテーマで取り組まれたのは、いま水サミットというものがあるからなのか。一過性ではなく引き続きとおっしゃっていたが、今後も「水」をテーマで活動される予定なのか。

(団体)

熊本市を元気にするということが基本的にあり、その活動の中に、熊本市の財産ってなんだろうって。それがやっぱり、ひとつは熊本城とかいろいろあるのだが、やっぱり水っていうものを大きな財産として、熊本市は外に向かってもPRしていかなければいけないし、ただ外に向かうだけではなくて、自分たちがその財産を大事に思う心を育てないと、熊本市が外に向かってPRもできない。美術品を持っている家があって、そこの若い人が価値がわからずに雨ざらしになって、埃かぶった状態になるよりも、ちょっとその知識を持って大事に残していこうという気ができれば、とてもいいまちになる、もしくはその財産が活かしていけるんじゃないかなと思って、それは当初の団体の目的にも沿っていることだと思って、ずっと続けていきたいと思っている。

(越地副委員長)

冊子の作成が大きな柱なのでお聞きしたい。水検定のテキストも含めてもういっぱいあるが、特色は何か。

(団体)

まず、もっと広げたいことがひとつ。もうひとつは、熊本市様の方でも小学生向けの冊子を作っているらしいが、やっぱりどうしても水道局とか、そういうところが中心となって作られているものだという事。もっと広く、もっといろんな角度で、水の大切さ、水における良さというのか、水があることによって、まちも人も息づいていることをもっともっと知らしめるような、それでいて、ちょっと難しいが、やさしく伝える冊子にしたい。そして、それをいっぱい多くの人に配るというか、それを教材にしていろんな地域の講座なんかにも使っていただけるようなものにしたい。そういうものを作っていきたいと思っている。

(UP-9) 傾聴ボランティアくまもと

【事業名】熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問しお話を傾聴する

<質疑応答>

(吉永委員)

質問ではないが、本当に大切なことと思う。地震の被災者の方だけじゃなくて、いま本当に地域に高齢で一人暮らしの方が、本当に目も薄くなって、耳も聞こえにくい、足も動かなくて、ただヘルパーさんや私たちボランティアが来てくれるのを待つだけで、本当にそれが多くなっている。民生委員

なんかも個人情報に邪魔をして、家の中に入ることもできないという現状を理解している。それで、こんな方たちのほんとうに手助けをしたい。近所の方が、隣の方が、話し相手になってくださるよう、傾聴ボランティアの方からも広報して欲しい。本当に寂しい高齢者の方たちがたくさんいる。よろしくをお願いします。

(団体)

ありがとうございます。微力ながら努力させていただきたいと思います。

(中島委員)

とても大事な活動をされていると思うが、この事業計画書のなかで協力団体が「なし」と記載されており、どこかその他の団体と協力するとか、やっぱり連携することがこれから組織というか、団体の想いを広げていくことになると思うので、それが何かあればお知らせをお願いしたい。

(団体)

もともとは熊本市社会福祉協議会の講座から派生しているので、社協の後ろ盾があると私たちは思っている。それで、協力団体というところに関しては、そこが本当に弱いというところは、本当にそのとおりで、なかなか難しいところではある。

(水野委員)

開催する場所が、いま白藤の団地のところと

(団体)

秋津公民館と、あと今後は4月から、木山仮設団地に移る。

(水野委員)

で、もう白藤、秋津ではされている。

(団体)

はい。秋津公民館は、昨年11月からもう始まっており、白藤の団地の方も1月30日に自治会長さんや町民の方との話し合いが済んで、もうすぐ、今月から始める計画になっている。

(水野委員)

公営住宅の方々だとか、地域の方々にも公民館を通してだとか、自治会を通して、お知らせをされるような

(団体)

そうですね。自治会長さんがとても協力的に、私たちの活動を応援してくださっている。

(UP-10) NPO法人 身近な犯罪被害者を支援する会

【事業名】 犯罪被害者等への市民の理解を深め、相談窓口及び支援内容についての周知対策及び犯罪被害者支援員の人材養成事業

<質疑応答>

(藤川委員)

先程、支援関係機関というのがあったが、犯罪被害者のための支援センターで「ゆあさいどくまもと」だとか、そういったところがあると思うが、そういった機関との連携などはされているのか。

(団体)

支援センターの方では、大きないわゆる刑事関係が主で、民事については全然携わっていない。それに対して、私どもは刑事から民事まで幅広くつなげていこうというのが主幹である。センターで刑事関係に対応した、そのあとの補償の問題とかそういった支援を、私どもでつなげていくという状況。

(古賀委員長)

私の方から確認したい。事業がふたつ提案されている。ひとつめが市民公開シンポジウムの開催、これは予算としては16万7千円。そしてもうひとつの事業、犯罪被害者支援員養成事業、これは皆さんたちの団体しかできない活動と思うのだが、予算はたった1万円である。事業2の充実についてどういうふうにお考えかお聞かせいただきたい。

(団体)

公開シンポジウムを中心に展開したいと思っており、相談員の育成講座は、当然私どもが進めていく必要があると思うのだが、これは各々の資料代だけ、資料作成のための費用として計上している。

(古賀委員長)

そうするともう少し、6講座ということだが、どういう人がこの講座を担当するのか、その人たちにお金は要らないのかどうか教えて欲しい。

(団体)

私どもはボランティアでやっており、こちらは刑事にもお話していただくし、弁護士あるいは司法書士、それから直接私の方で、事務局でやるというような講座を開催する。すべて謝礼を出さないように協力をお願いしているので、その辺は使われていない。

【委員長総評】（市民公益活動支援基金運営委員会 古賀委員長）

改めまして、皆さんこんにちは。本運営委員会の委員長を務めております、古賀でございます。今回はたくさんの方に助成申請をいただきまして、ありがとうございます。

まずひとつめとして、今回の助成申請についてお話をさせてください。今年は10団体の申請がありましたが、都合によりひとつ欠席がありましたので、9団体。そして昨年が12団体。その前が15団体ということで、少しずつですが減ってきております。今年度の特徴としては、皆さんが申請されたステップアップ事業と、もうひとつ、若い団体を育てようという私たちの希望もありまして、スタートアップ事業というものがありますが、このスタートアップ事業が、例年4団体、5団体のところ、今年は11団体と、実はステップアップよりも多く助成申請がありました。そういった意味では、ステップアップあるいはスタートアップ両方が、私たちが募集要項を定めておりますが、そういったそれぞれの役割に沿ったかたちで、適宜対応していただいておりますのがひとつあります。

もうひとつ今年度変わったことは、このわくわく基金は、市民の皆様からの寄附をいただいて運用しているわけですが、このなかに、法人からの大口寄附、というところちょっと語弊があるかもしれませんが、東京エレクトロン九州様と、熊本法人会様から大きな寄附をいただいております。その寄附者を、私たちは冠寄附者と呼んでいますが、この冠寄附者から、これまでは寄附をいただくだけでしたが、今年は皆さんが提案された事業計画書を見ていただきまして、より評価したい団体やご意見をいただく、意見評価シートをご提出していただきました。もちろん私たち運営委員会は、意見評価シートに左右されるものではなく、独立した採点を行いますが、今年度はそういった寄附者側の意向を踏まえつつ、審査を充実させているということをご承知おきいただければ幸いです。

さて、大きなふたつめとして、申請内容について触れますと、今回の9団体を少し分類しますと、環境系が3つ。子ども系が3つ。コミュニケーションが2つ。そして社会問題がひとつということで、例年子ども関係の申請が多かったのですが、今年は少し少なくなっています。その分、子ども関係はこれからの可能性を秘めた団体からの申請が多かったのかなあというふうには受け止めております。

最後に、審査基準には5つの項目があるということは、事前にご承知かと思いますが、特に個人的に、私の意見ということで聞いてください。私のなかでは、事業計画性。「事業目的を達成するための手段や方法が適切であり、合理的に事業を実施することができる」。これともうひとつ、発展性。「事業の持続性や事業効果が広く波及する見込みがあり、事業の拡大や改善等を行いながら発展していく可能性がある」。わたくしが、ちょっと意地の悪い言い方があったとしたらお許しいただきたいのですが、委員長としての責任がございますので、確認したかったのは、事業計画性がちゃんと担保されているかどうか。もうひとつが、波及です。自分たちの団体だけの独りよがりでは終わっていかないか。もっと広く市民や皆さんに広がっていくことが可能ではないか。それとこの波及ですが、熊本市が助成しているので、あまり県外の遠いところまでというのは、実は私たちは念頭に置いておりません。熊本市とその都市圏といった、その広がりぐらいのなかでの活動ということを目安、これはあくまで目安ですが、これを持っておりますので、そういったことを含めた確認として質問したり、あるいは委員の皆様方からの激励の言葉があったと考えております。

このように、今回は大きく審査のやり方を見直したり、また、どちらかというと、今回ステップアップ助成事業に申請された方は、半分ぐらいは初めての方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そういった意味では、新しいチャレンジフルな提案をたくさん聞かせていただきました。そういったものを、この後に審査委員会を開かせていただきまして、結果としては採択と不採択がございますが、

それをきちんと根拠づける議論をさせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

これをもって簡単ですが、委員長の総評とさせていただきます。本日はお疲れ様でした。

( 終 了 )